

総務部からのお知らせ

今年度会員の皆さまへ

次年度（2026年度）  
「継続のお知らせ」が発送されます！

「都道府県看護協会 / 日本看護協会の次年度会費に関する重要なお知らせ」（継続のお知らせ圧着ハガキ）が11月より順次発送されます。施設会員の方は所属施設へ、個人会員の方はご自宅へ届きますので、必ず開封し、内容をご確認ください。



図書室からのお知らせ

- 開室時間 月曜日～金曜日  
9:00～17:00（11:30～12:30は休室）
- 休室日 土曜、日曜、国民の祝日、年末年始、蔵書点検日



- 広島県看護協会の会員で本の貸出を希望される方は初回に図書室利用登録が必要となりますので、本年度手続き済みの会員証を持って来室してください。
- 駐車場はありません。公共交通機関または近隣のコインパーキングをご利用ください。

問い合わせ先  
図書・情報管理室  
TEL 082-296-5079

広報委員  
の  
おすすめ!

わたしの好きなもの

わたしの推し鳥さん

広報委員 北村 有里  
(医療法人 光臨会 荒木脳神経外科病院)

皆さん、生き物で癒されることはありますか？ 我が家にはウロコインコがいます。名前は『楽俊』。いつも自分の愛称で『らっちゃん』と鳴いてアピールし、『だいじょうぶ!』と言ってくれます。手に乗せて、愛鳥の背中を猫吸いならぬ鳥吸いし、ほし草のような柔らかい匂いを嗅いで癒されています。水に濡れた時のらっちゃんはなぜか濡れ雑巾の匂いになってしまうのですが、、、とにかくとても陽気で愛嬌のある可愛らしい鳥さんです。



私の愛鳥「ウロコインコ」です。



「最高の笑顔」

小児科病棟に勤務した頃、医療的ケアが必要な8歳のAくんとお母さんに会いました。肺炎など感染症で入院を繰り返す中で、お母さんから学校での様子を写した写真を見せていただきました。そこにはこれまで見たこともない、とびきりの笑顔のAくんが写っていました。表

情から“楽しい”“うれしい”といった感情があふれていて、Aくんの日常が垣間見えたうれしさと、入院しているこの空間のAくんしか自分には見えていなかったことに気づきました。私たちが看るのは「その人」であることを忘れないようにしたいと、改めて感じた時間でした。

(広報委員 河合 由美子)

広島県看護協会報 看護ひろしま  
11月号 262号  
発行 2025年11月  
公益社団法人 広島県看護協会  
〒730-0803  
広島市中区広瀬北町9-2  
☎ 082-293-3362  
発行責任者 黒瀬 真理子  
編集 広報委員会  
制作 有限会社バル

# 看護ひろしま

広島県看護協会報 vol.262



会員数 合計 18,965人 (令和7年11月1日現在)

11

2025  
NOVEMBER



特集 私の防災だより





## 防災訓練が築く、命を守る連携

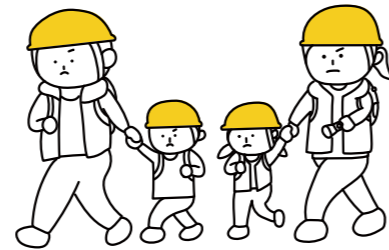
令和6年8月、当院は「草津病院」から「こころホスピタル草津」へと名称を変更し、新棟の運営を開始しました。そして同年11月には、秋季全国火災予防運動の一環として、広島市西消防署および広島市西消防団との合同防災訓練を実施しました。地域との連携を深めながら、災害時の初動対応力の向上を目指しました。

今回の訓練で想定したのは、「安芸灘で発生した震度6強の地震に伴い、1階の調理室で火災が発生。従業員数名が逃げ遅れている。さらに屋上では、点検作業中の作業員が取り残され救助を求めている」という、複雑かつ実践的な状況です。

特に重要視したのは、医師、看護

師、救急隊員が連携して行う救護所の運営です。災害時には、多数の負傷者が同時に発生する可能性が高く、混乱した状況下で的確なトリアージや応急処置を迅速に行うことが、一人でも多くの命を救う鍵となります。訓練を通じて、職種を超えたチームとしての連携体制を確認できたことは、大きな収穫でした。それぞれが専門性を発揮しながら、全体として機能する「命を守るシステム」を構築していく必要性を改めて感じました。

今回の訓練では、想定外の事態への対応など、課題も多く見つかりました。しかし、こうした「うまくできない部分」を洗い出すことこそ、実践的な



訓練の重要な目的です。実際に起こりうる状況を想定し、失敗から学ぶことで、私たちはより現実的な対応力を身につけることができます。日頃の訓練が「いざ」という時の冷静な行動につながることを、全員が身をもって体験しました。私たち看護職は、患者さんの命を守る最後の砦として、災害時においても重要な役割を担います。いつ、どこで起こるかかわからない災害に備え、今後も病院全体で防災意識の向上に努め、地域医療の一員として、安全で安心な環境を提供できるよう尽力してまいります。

【リポート】  
医療法人社団更生会 こころホスピタル草津  
看護部副部長 柳井 亮太

## 広島県の看護職員確保に向けた取組

県では、次の4つの柱で県内の看護職員の確保及び県内への定着を図っています。どのようなことをしているのか、内容を簡単に紹介します。

### 新規養成

看護職員確保対策の根幹となる「新規養成」を支援するため、看護師等の養成所の運営費の補助を行っているほか、養成所等の看護教員・実習指導者のための研修、更に助産師養成施設の学生に対する修学資金の貸与をする事業などを実施しています。

### 復職支援

看護職員としての就業を促進するため、(公社)広島県看護協会を広島県ナースセンターと指定し、無料職業紹介や復職支援研修などのナースセンター事業を委託実施しています。看護職員の離職時等の届出制度(とどけるん)を活

用し、求職者になる前から、切れ目のないきめ細やかな支援を行っています。

### 定着促進

離職率の高い新人看護職員の資質向上を支援し、離職を防止するとともに、全ての看護職員がキャリアのステージに応じてキャリアアップしながら働き続けられるよう、新人職員の集合研修や研修指導者等への研修を行っています。

また、働きやすい職場環境づくりを支援するため、院内保育所の運営費補助や、ワークライフバランスの推進に向けた相談事業などを実施しています。

### 資質向上

在宅医療の推進や、新興感染症発生・まん延等に迅速・的確に対応できる専門性の高い看護職員を育成するため、特定行為研修や認定看護師教育機関への派遣費用を一部補助しています。

このほか、需要が急激に伸びている訪問看護師の育成を支援しています。

これからも、広島県で就業する看護職員の皆さまが、それぞれのライフステージに応じて生き生きと働き続けられるよう、さまざまな取組を行っていきたくと考えています。

【リポート】  
広島県健康福祉局医療介護基盤課  
主査 上田 三紗

広島県の看護職員確保対策の取組などについて、  
随時、広島県HP「ひろしまナース♥ネット」に情報を掲載しています。  
新着情報をお見逃しなく！



広島県HP

「ひろしまナース♥ネット」はこちらからアクセス。  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nurse-net/>



ひろしまナース♥ネットは  
看護の総合情報サイトです!!

現役看護職の方には…

- 保健師、助産師、看護師、准看護師の免許に関する手続きの情報
- 研修や講習会のお知らせ

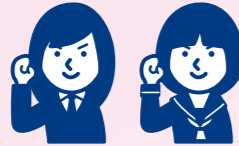
病院関係者の方には…

- 各種支援や補助金の情報

復職を目指している方には…

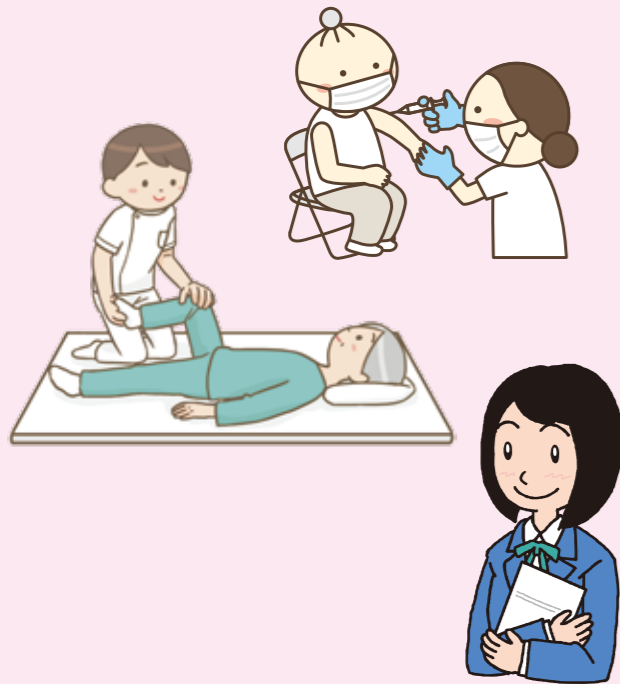
- 無料就業相談、復職に向けた研修情報

## 看護は“暮らし”を支える ～高校生ふれあい看護体験～



8月、三原市内の高校生2人を迎え、「ふれあい看護体験」を実施しました。午前は看護師に同行し、内服管理や静脈注射、体調の確認を見学してもらいました。事務所で昼食をとったあと、午後は訪問リハビリに同行し、酸素投与中の利用者様のリハビリの様子を見学しました。高校生は当初、訪問看護は寝たきりや医療処置中心という印象でしたが、実際は地域を走り“暮らし”を支える仕事だと実感していました。病院と同じように医師・薬剤師・ケアマネジャー・看護師が連携して在宅を支える姿にも触れてもらえました。高校生から「暮らしの中に看護があることがわかった」という感想もいただきました。地域看護に関心を持ってくれたことがうれしかったです。自分の進む道を思い描きながら行動できるところが、本当に素敵だと思います。どのような形でも、また一緒に働ける日を楽しみにしています。

【レポート】  
株式会社徳寿 訪問看護ステーション Aioi  
管理者 三浦 和洋



## 大竹中学校 生命尊重の日に際して

6月10日、看護の出前授業において「わたしたちはどう生きるのか 大竹中学校 version」をテーマに講演を行いました。

内容は、JA広島総合病院DMATの災害支援活動を中心に、救急看護認定看護師として救命救急の現場で経験してきたことを交えて「命の尊さ」について共に考える機会になるよう、生徒さん達の心に響くことを願いながらお話をさせていただきました。

講演では、能登半島地震により妻と息子さんをお亡くされたお父さんのインタビューを視聴しながら、甚大な災害の無情さと被害に遭われたご家族が皆に伝えたい想いについて考えました。また、コロナパンデミック（感染症）も大変な災害であることや緊急事態宣言中の学校生活の苦勞を労うと、たくさんの生徒さんが大きく頷いていたのが印象的でした。

講演後の感想文や保健だよりを拝見し、災害時に限らず「自分の命を大切に:自助」、「周りの人のことを思いやる:共助」、「命を救う人になる:公助」についてクラスの皆で考えていただいたことが分かり、とても嬉しく思っています。

【レポート】  
広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院  
看護科主任 救急看護認定看護師 竹野 香織



命の尊さについて学ぶ



## 拭き取り不要のawa陰部ケア



植物由来のやさしい泡

長年看護技術の中で陰部清潔ケアの方法は洗剤を用いて微温湯で洗い流すという方法で行われています。現場では微温湯や洗剤の準備・片付けの時間が必要なため最低1日1回程度のケアとなり、おむつ交換の度に実施することができていないのではないのでしょうか？ 毎回洗剤を使用することは皮膚の自浄作用を低下させることに繋がりますが、1日数回の洗浄は、皮膚トラブルを低下させるという研究報告もあります。

当院では陰部ケア実施が簡便であり、皮膚の自浄作用を低下させない陰部ケア方法の確立に向けて、約2年比較検討研究を行いました。毎回のおむつ交換に使用でき、皮膚に優しい拭き取る必要のない植物由来の新しい泡洗剤【Bodyawa】（以下awa法に省略）を使用し、awa法による陰部ケアと従来の陰部洗浄では、awa法の効果が同等以上でありケア時間を短縮できる結論を得ました。

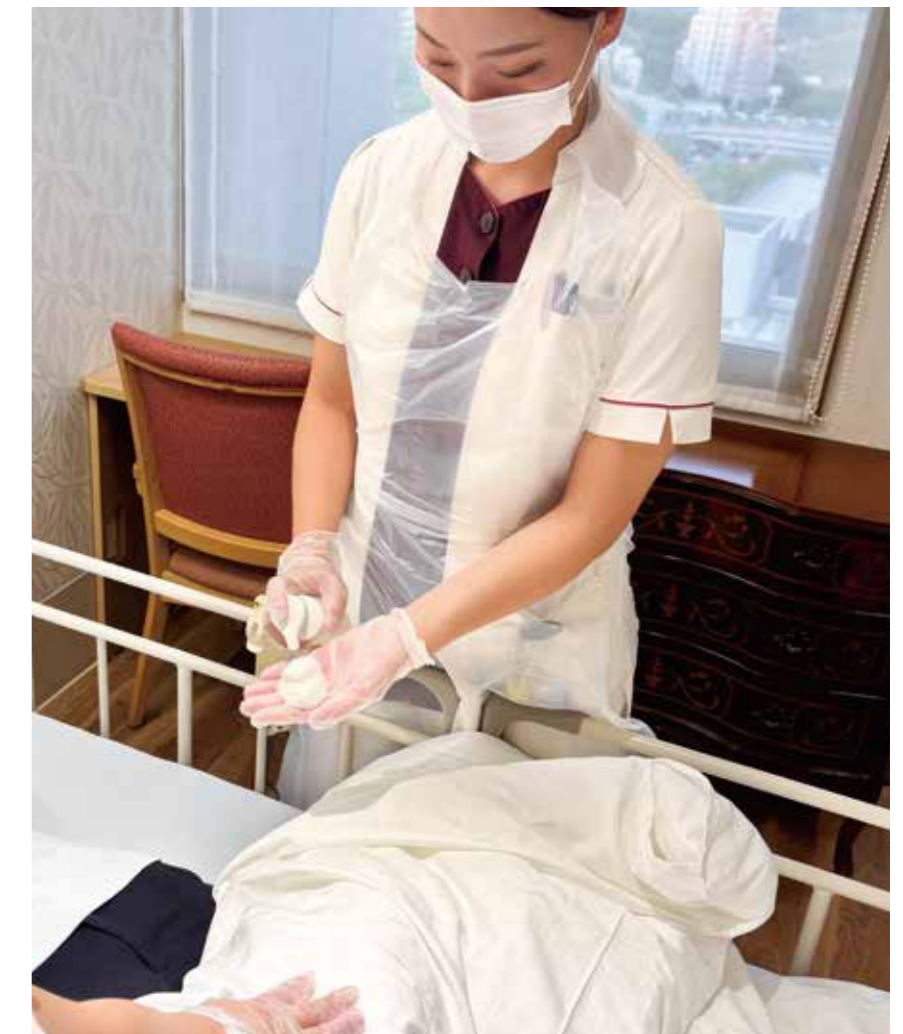
awa法は、98.4%が植物由来の合成化学物質を最小限とした泡洗剤を用います。成分はカキタンニン

等による静菌作用、シャクヤク根エキス等による保湿作用があります。また泡状の洗剤は崩壊性が高く皮膚の凹凸部分に液体として速やかに行き渡り、拭き取ることも不要なため皮膚摩擦レス効果があります。

当院では、awa法の導入により陰部ケア時間が従来方法の約半分に短縮されました。さらに、陰部洗浄用ボトルの準備・片付けやケア時間も短縮され、看護業務が有意義となりました。また、1日4回のawa法により植物由来成分の香りで、尿臭な

どが軽減されたように感じています。排泄物の臭気を感じにくくなることで、ケアをされる患者さんの自尊心が守られると考えます。看護の中で大切な清潔ケアを最短時間で効果的にできることにより、患者さんとの会話やタッチングの時間が増えました。  
\*紹介した研究は、第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会で会長賞を受賞しました。

【レポート】  
医療法人社団八千代会 メリィホスピタル  
看護部副主任 後藤 愛美



awa法を導入したケアの様子



## 地域で暮らしを支える看護職

### 自分らしい暮らしを安心と共に

「住み慣れた地域で、最期まで自分らしく過ごしたい」そんな患者さんやご家族の願いに寄り添い、在宅での療養生活を支えるのが訪問看護の役割です。秋本クリニック訪問看護ステーションでは、終末期の方を中心に日々訪問を行っており、がん末期など医療依存度の高い方にも対応できる体制を整えています。クリニック併設型という強みを活かし、医師と密に連携しながら、疼痛コントロール・点滴・カテーテル管理など、入院と遜色ないタイムリーな医療支援を提供しています。

さらに当ステーションでは、ICTツールを活用し、チーム内の情報共有をリアルタイムに行うことで、迅速な意思決定と質の高いケアを実現しています。オンライン診療(D to P

with Nurse) やリアルタイムのエコー検査の画面共有システムの導入により、看護師が訪問中に医師の診察・判断を即座に確認できる体制も構築。現場での医療的対応力が格段に高まっています。

訪問看護師は、単なる医療行為にとどまらず、患者さんの生活背景を含めたアセスメントを行い、ご本人・ご家族の不安に寄り添いながら支援します。状態変化への早期対応、多職種との連携、そして暮らしそのものを支える視点が求められます。

当ステーションは「ケアステーション」の考え方を取り入れ、同一フロア内に居宅介護支援・訪問看護・在宅医が揃う一体型の支援体制も構築しています。その中での訪問看護師はチームのハブとして、現場に最も近い



視点から地域を支える役割を果たしています。

人生の最終段階において、患者さんご家族が安心して過ごせる環境を整えるために、秋本クリニック訪問看護ステーションはこれからも「自分らしい暮らし」を支える地域の拠点として、看護の力を発揮していきます。

【レポート】  
秋本クリニック訪問看護ステーション  
管理者 杉田 かおり



### 01 福山市医師会看護専門学校

## 看護の素晴らしさに気付ける場所

富永 栄子  
(福山市医師会看護専門学校 第二看護学科 主任教員)

※「育看」＝「看護の担い手を育てる」の意味。広報委員が考案。

#### 自己紹介

血液内科11年、腎臓内科1年、救命救急8年の20年間同じ総合病院で勤務した後、母校の看護専門学校で専任教員として10年務め現在に至ります。

#### 教員を目指したきっかけ

定年まで臨床の場で働き続けたいと考えていましたが、体調を崩し、主治医からは、このまま臨床の第一線で働くのは無理だと宣告されてしまいました。悲嘆にくれながら、夜勤のない外来勤務へ変更を考えているときに、母校から教員のお誘いのハガキが舞い込んできました。これも何かの運命だと思い、全く選択肢に無かった教員職の門を叩きました。

#### やりがい

最初の頃は、教員職にやりがいを感じられず道を誤ったのではと後悔するばかりでした。その頃の私の関心は、目の前の学生ではなく、その先にある患者さんにありました。患者さんの安全と、命を守るために学生を育て、臨床に出さなければという一心で関わっていたように思います。私の基準を枠にして、そこからはみ出る学生の本当の想いに気付こうともしていませんでした。

患者さんの思いを理解しようと努め看護してきたはずなのに、学生に対してその様な思いを持って関わる

ことができていなかったように思います。

しかし、年数を重ね多くの学生たちと関わっていくにつれ段々と私の考えは変わっていききました。実習や授業の場で、学生たちは私が考えもつかない思いを持って看護を考えます。

そんな素敵な思いや場面に出会う度に、私の新たな気付きと成長につながっていると感じます。今では、「私の師は学生」と思いながら学生と共に楽しく深く看護を学べ、それがやりがいとなっています。

#### 学生を育てるうえで大事にしている事、心がけ

「患者の皮膚の中に入り込んでその人を見る」というヘンダーソンの言葉を大切に学生理解に努め、「我以



外は師」と感じながら共に成長していくことを目標に、これからも学生と共に看護の道を歩んでいきたいと思っています。

#### その他

看護学校という職場は私にとって看護の学び直しができる場だと感じています。看護の道に疲れたり迷ったとき、素直な学生の看護に触れてみてください。看護って素晴らしいなと思えるはずですよ。



「職場紹介」のコーナーに「学校紹介」を新たにスタートします!

広報委員会では、会員アンケートの結果をもとに、これまでの「職場紹介」に看護教育の場である学校紹介を企画しました。学校PRではなく、未来の看護職を目指す学生に関わる、看護教員の方々に視点を置き、興味をもっていたいただける内容にしました。

タイトルは「育看(そだて)」。広報委員が考え出した造語ではありますが、看護の担い手を育てるという意味を込めています。

保健師交流会

新しいつながりを次への力に



グループ発表

7月26日、入職3年目までの新任期保健師を対象に「保健師交流会」を開催し、11人の参加がありました。参加者は3つのグループに分かれて日頃の仕事のモヤモヤを話し、それを解決するためのアイデアを出し合いました。「目に見

えて結果が出ない」「ケース対応の正解がわからない」「予防することが保健師の仕事なのに、支援が後追いになる」等のジレンマに対し、「やったことリストをつけて達成感を味わう!」「いろんな

人に意見を聞いてみる!」「恐れずとりあえずやってみる!」「いろいろな機関に繋ぐことも保健師の役割!」等の解決策が出ました。先輩保健師からも、小さい目標に向けて取り組むことや、どんな支援にも正解はなく相手にどうやって欲し

いかを考えて接することが大切といったアドバイスをもらいました。

終始和やかな雰囲気の中で、会話もとても盛り上がりました。働く場所は違いますが、ここでの出会いが皆さんの支えになったり、仕事の中でも役に立つことを願っています。

【レポート】  
保健師職能委員会／森崎 明子  
(廿日市市 健康福祉部 健康福祉総務課)



名刺交換

准看護師研修会

進学への一歩を踏み出してみませんか

7月5日、准看護師研修会が看護協会にて開催されました。真夏の暑さを思わせる日でしたが、8人の方に参加していただきました。冒頭、看護師職能委員会の右近理事より「これからの看護への期待」と、広島県健康福祉局医療介



講義風景

護基盤課 上田三紗主査より「進学についての情報提供」についてお話していただきました。

進学の情報を聞いた後、准看護師を経て、看護師資格を取得した3人より進学先を選んだ理由、学校での生活などの体験談を聞きまし。3人共が「しんどかったが学びも多く、進学して良かった」と話されていました。そのうちのおひとりから「准看護師では年収も働く場所も制限される。可能であれば、進学してほしい」と発

表されたのが印象的でした。

その後は、ワーク形式をとり質疑応答の時間を設けました。話し合いは白熱し、進学を真剣に考えている受講者からの質問を熱心に聞き、悩みに応えてくれていました。

約2時間の短い時間でしたが、受講者にとっては、進学への希望の一歩になった研修になったのではないかと感じました。

【レポート】  
看護師職能委員会／野村 優子  
(医療法人あかね会 土谷総合病院)

助産師の活動

連携で支える母と子のケア

東広島市、竹原地区の急性期中核病院である東広島医療センター周産期病棟は、東広島市内に2施設しかない分娩施設として、地域の周産期医療を支える重要な役割を担っています。当院は、ハイリスク分娩にも迅速に対応可能な体制を整備し、チーム医療により安全かつ安心できる医療環境の提供に努めています。近年、当院の分娩件数は増加傾向にあり、助産師に求められる役割と責任は一層大きくなっています。更に、妊娠から出産、産後まで一貫したケアを提供し、母乳外来では授乳に関する不安や悩みに丁寧に対応していま



NICUでのカンファレンス風景

す。産後ケアでは母親の心身のサポートを行っています。同じフロアにはNICUが併設されており、この環境を活かしてNICUと連携し母子の育児プランを密に共有し、統一した育児支援を提供しています。加えて毎年多くの新人助産師

が就職し、幅広い年齢層の助産師が在籍しており、豊富な経験と新鮮な視点を活かした母子に寄り添ったケアを提供しています。

【レポート】  
助産師職能委員会／嘉藤 桃枝  
(独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター)



表紙の舞台②

三次・庄原支部

「自分たちの地域は自分たちで守る」支部活動

三次・庄原支部の面積は2024km<sup>2</sup>と広島県の23.9%を占め、大阪府を超える面積を持ちながら人口は1/100の9万人弱、高齢化率40.75%と少子高齢化の波が押し寄せている支部になります。また、「無医地区」は広島県内53地区のうち31地区あり広大な土地に限られた人材で医療・看護・介護の実践が必要です。少子高齢化という日本の最先端を走っている支部で、すでに2040年問題は始まっています。「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識の元、病院や地域の魅力発信や特定行為修了者が伝える臨床推論など自分たちで研修会

を作り上げ、盛り上げ、人材確保と育成、定着推進に取り組んでいます。

三次・庄原支部の活動の柱である「まちの保健室」事業は地域のサロンなどに認定看護師が出向き「認知症について」「脱水予防」など講義と演習・座談会などを実施しています。

コロナ禍で件数が減少しましたが、徐々に拡大しています。

今後も地域に出向き地域のニーズにこたえる活動をしていきたいと思

【レポート】  
三次・庄原支部 支部長／寺本 辰美  
(総合病院 庄原赤十字病院)

【表紙撮影の舞台裏】



今日はお揃いのジャンパーを着るのだそうです



撮影前に「看護ひろしま」の宣伝です!



笑顔をお願いします〜す

リスクマネジャー意見交換会

医療安全活動を行う上での悩みを語り、  
解決への糸口を見つけよう!



実践報告

医療安全管理者は1人で業務を担うことが多く、やりがいを感じる反面、悩みを打ち明ける機会が少ないため孤独を感じることもあります。今回、「語り合おう!医療安全活動」と題し、日々の業務における悩みや課題を語り合える場を設けました。

最初に3施設の医療安全管理

者から「現場での分析力を育てる取り組み」「専従としての新たな気づき」「施設における医療安全の課題」の実践報告がありました。その後、参加者はグループに分かれ、日々の活動で抱える困りごとや課題について活発に語り合いました。交流を通じて課題解決の糸口を見つけたり、新たなネットワー

クが築け、参加者が笑顔で帰る姿が印象的でした。アンケート結果でも「悩みをしっかりと話し合う事ができ、解決策を提案してもらえた」「とても有意義な時間だった」「明日から頑張ろうと思えた」などの回答が多く、この意見交換会が各施設の医療安全活動のさらなる発展につながることを期待しています。

【レポート】  
社会経済福祉委員会/宮地 美樹子  
(中国電力株式会社 中電病院)



(写真右から) 広島大学病院 医療安全管理者 右近清子さん、医療法人一陽会 原田病院 医療安全管理者 尾中幸恵さん、総合病院 三原赤十字病院 医療安全管理者 高山智恵美さん

看護と経営をつなぐ、  
新しい専門資格「施設基準管理士®」



施設基準管理士は、病院が行う施設基準の届出や運用を総合的に管理する専門資格で、日本で唯一の制度です。診療報酬算定や

届出の負担を軽減し、国民に安全で質の高い医療を提供することを目的としています。特に看護部門では、勤務表や「様式9」の管理が施設基準と直結しており、資格を持つ看護師は、適時調査への対応力や経営改善への貢献度が高まります。例えば、取得後の病院で調査指摘ゼロを達成した事例もあります。チーム医療を要件とする届出でも中心的役割を担い、働きやすい職場づくりにも寄与します。高齢化や医療需要の多様化

が進む中、施設基準管理士は今後さらに重要性が高まる資格です。キャリアアップと病院の信頼向上を両立できる、新しい専門職の形です。

【レポート】  
社会福祉法人 恩賜財団 済生会広島病院  
副看護部長 施設基準管理士 大亀 彩子



支部活動紹介

広島中支部

工夫ひとつで好印象



「人との良い関係づくりは、親しみやすさと笑顔から」をテーマに、ARSOA ECRUの藤崎嘉江先生をお迎えし交流会を開催しました。

まず、第一印象に関してグループディスカッションを行いました。自分が思っている自分と他者が描いている自分の違いを知り、びっくりしました。先生の「印象は初めの4分で決まる」との言葉が胸にしみ、笑顔

や表情の大切さを実感するとともに、多くの気づきや学びを得ることができました。和やかな雰囲気の中で交流も深まり、日々の看護に活かせる具体的なヒントを得られる、とても有意義な時間となりました。

【レポート】  
広島中支部 副支部長/森 麻美  
(医療法人社団 生和会 たかの橋中央病院)

東広島・竹原支部

まちの保健室を  
もっと身近に



令和7年3月より東広島・竹原支部では、まちの保健室の開催場所をショージR375バイパス店に変更しました。これまでのまちの保健室は、利用者数が少ないことが課題でした。そこで、買い物などのついでとして利用していただける環境がよいのではないかと考え、近隣のスーパーなどを巡り、現在のショージR375バイパス店に協力していただけること

になりました。入口で声をかけると「せっかくだから」と買い物前に血圧測定や健康相談をされる方も増えてきました。今後もまちの保健室が地域に根差したものになるよう活動を続けていきたいと思っています。

【レポート】  
東広島・竹原支部 総務/岩川 郁江  
(医療法人 若葉会 西条中央病院)

広島北支部

癒しの音楽で  
心身のリフレッシュ



広島北支部は4月の総会終了後、「癒しの空間と心身のセルフケア」というテーマで研修会を行いました。音楽療法士4人による、クラリネット、フルート、ピアノの奏でる素敵な演奏と楽しいトークに心が癒されました。

参加された会員の方からは「素敵な生演奏を聴くことができ、穏やかな気持ちになりました」「久しぶりに音楽をゆっくり聴くことができまし

た。元気が出ました」などの感想をいただきました。今後も会員の方の活力になる研修・活動を継続してまいります。

【レポート】  
広島北支部 支部長/菅 太佳子  
(広島医療生活協同組合 広島共立病院)